



木徳神糧株式会社



TSE JASDAQ LISTED

証券コード
2700

第66期

株主通信

平成25年1月1日 ▶
平成25年12月31日





早期に事業の立て直しを図り、
次なる成長のための変革に取り組んでまいります。

代表取締役社長 平山 惇

Q 2013年12月期の業績の総括をお聞かせください。

主力の米穀事業で、営業赤字となり、大変厳しい結果となりました。

2013年12月期は、主力の米穀事業は、生産団体の施策により、平成24年産米の仕入価格が前年産米を大幅に上回る高値でスタートしましたが、前2期には需給が引き締まり、取引先の要望に合致した銘柄供給がままならない場面もあったことから、平成24年産米については、安定供給の実現を第一義に考え、仕入契約を早期に実施しました。

この仕入価格の高騰に伴う販売価格の値上げが米消費の減退や販売不振を招き、卸業者間の玄米取引数量が減少しました。しかしながら平成24年産米の販売単価が前年同期を上回る水準であったこと、コンビニや中食・外食等向けの精米販売数量が堅調に推移したこと、ミニマム・アクセス米の取扱量が増加したことなどから、売上高は前年を上回りました。

一方で、平成25年産米の豊作基調を背景に平

成24年産米の在庫の過剰感、価格の先安感が一層強まりました。新米である平成25年産米が平成24年産米と比べ相場が大幅な安値となったことにより、平成24年産米の販売単価を大幅に下げたことや、平成24年産米の民間在庫が例年の水準を上回り、販売における卸業者間の価格競争がさらに激しくなったことで、販売単価の低下による販売差損が発生するなど、大変厳しい状況となりました。さらに、在庫調整や販売促進のタイミングを見誤るなど、対策が後手に回ったこともあり、利益率が急速に悪化しました。年度末においては、来年度に持ち越す在庫に対し、収益性の低下に基づく簿価切り下げを適用したことで、多額の損失を計上する結果となりました。

飼料事業は、穀類や糟糠類・乾牧草を中心とする配合飼料原料及び単味飼料の販売数量を順調に伸ばしたほか、食品事業でも新商品の開発や

「真粒米」の自社プラントの立ち上げなど、付加価値の高いたんぱく質調整米の販売、コンビニ向け米粉販売ともに堅調に推移するなど、明るい話題

もありましたが、養鶏や鶏肉の加工・販売を手掛ける内外食品株式会社の採算悪化とあわせ、非常に厳しい結果となりました。

Q 今後の事業の舵取りの方向性についてお聞かせください。

次なる成長を描くためにも、まず足元の事業の立て直しをしっかりと果たしていきます。

2014年12月期最大のテーマは、事業の立て直しです。2013年12月期に発生した米穀事業の損失要因は新しい期に尾を引くことはありませんが、従来のやり方では、避け切れないリスクを背負っていることは事実であり、自らの成長戦略を着実に進めるには思い切った変革が必要です。

そこで3年後を目処に、次なる飛躍に向けたスタートを切れるよう中期3カ年計画を策定し、各種取り組みをスタートさせました。

まず今期は、前年の反省を踏まえ、豊作であった平成25年産米については、早期に一気に契約することなく、市場の動きにあわせ、適時契約を行うこととしています。

そして、大きな変革への取り組みとして、仕入れルートの拡大・契約手法の多様化というテーマを掲げました。農政の変化などを踏まえ、農業法人への参画も含めより生産者に近づくような仕入れの体制を組んでいく計画としております。また、自社の特徴を伸ばし、切磋琢磨して企業力を高め

ていながらも、業界内で協調すべきところは連携し合い、バイイングパワーを発揮できる体制の構築も図っていきます。

現在、宮城県を中心に作付け誘導している水稲品種「五百川」の種子管理・供給権を有し、販売まで一手に引き受けています。こうした他にはない独自の品種・銘柄の取り扱いを今後さらに積極化していきたい考えです。

また、消費行動の変化を踏まえて、既存取引先が展開しているネット販売に柔軟に対応していくとともに、既存インフラを活用しながら、新たな販売先、販売チャネルの拡大を進めていきます。

米穀事業ではもうひとつ、ベトナムでの事業運営で転換を図ります。以前からお話しています乾燥・粳摺り専用工場が2014年3月より本格稼働することとなりました。これにより、高品質の美味しいお米の安定的供給、歩留まりの改善の両方を実現させることができます。ベトナム国内での日本食のニーズに応える新市場の創出を図るとも

トピックインタビュー

に、シンガポール、マレーシア、香港、タイなどに向け、「美味しい木徳神糧のジャポニカ米」の浸透・拡大を狙っていきます。

順調に実績を積み上げている飼料事業については、広域卸の機能を活用し、飼料用米の取り扱いを増やす取り組みも進め、さらなる成長を図ります。

食品事業では、まずしっかりと鶏肉事業の黒字化を実現する、これが最重要テーマです。

フレッシュな商品だけでなく、つくねや肉団子、ローストチキンなど、加熱処理した商品提供を通じて、新販路の開拓を目指します。また、2013年8月より商品販売を開始したたんぱく質調整米「真粒米」の生産量拡大に向け、国内生産設備の拡張を考えています。さらに台湾の屏東にある輸出加工区を活用して、コストダウンを図った「真粒米」の生産を開始し、台湾や中国に向けて販売する海外展開もスタートさせていく計画です。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

確実に業績を回復させ、次なる成長の布石を打っていきます。

まず、2013年12月期に業績が悪化したことは、ひとえに経営者である私の責任と痛感しております。この期で経験したことを活かし、次なる成長の糧として活かしていけるよう、鋭意努力していきます。

中期3カ年計画の初年度となる2014年12月期の計画は、前々期の業績水準にまで回復するという少し低めの目標設定となっておりますが、この計画を確実にかつ早期にクリアし、新しい成長を志向していくための足元をしっかりと固めてい

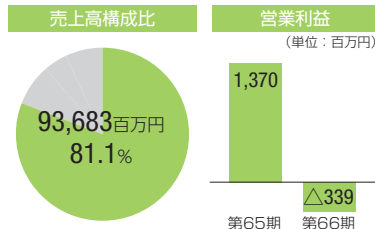
くことを目標としています。そのためにも、当期は、役員の管掌変更など、組織内の活性化にも取り組み、この3カ年で着実に変革を成し遂げていきます。

株主の皆様への還元については、引き続き期末配当3円、年間合計6円の安定配当を実施いたします。

株主の皆様安心して株式を保有し続けていただけるよう経営に邁進してまいりますので、今後とも末永くご支援のほどよろしくお願いいたします。

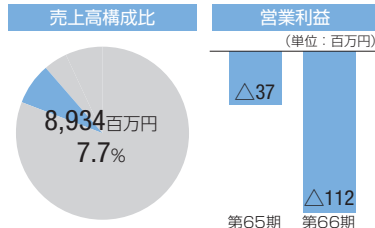
セグメント別営業概況

● 米穀事業



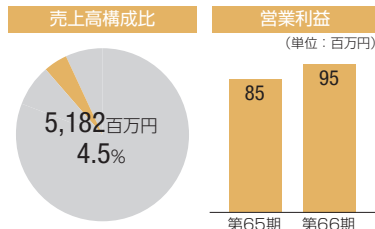
ミニマム・アクセス米の取扱量やコンビニ、外食等向けの精米販売数量が堅調に推移したこと、平成24年産米の販売単価が前年同期を上回る水準であったことから、売上高は93,683百万円となりました。しかし、平成24年産米の大幅な販売損失とたな卸資産の収益性の低下に基づく簿価切り下げを実施したことから、営業損失は339百万円となりました。

● 食品事業



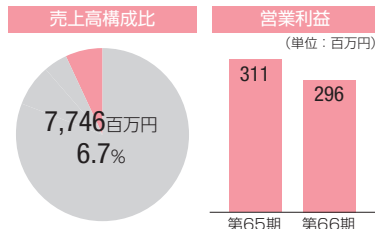
新商品の開発や「真粒米」の自社ブランドの立ち上げなど、付加価値の高いたんぱく質調整米の販売は引き続き好調であり、コンビニ向けの米粉販売も堅調に推移しましたが、養鶏・鶏肉販売事業を手掛ける食品子会社が、配合飼料価格の高騰や国内相場低迷の影響を受けて採算が一段と悪化したことから、売上高は8,934百万円、営業損失は112百万円となりました。

● 鶏卵事業



鶏卵相場は上期では軟調でしたが、夏の猛暑の影響で生産量が減少し、下期では一転高値となったものの一般卵の特売が減少したため、売上高は5,182百万円となりました。しかし、付加価値の高い特殊卵の定価販売の増加や販管費の削減などが奏功した結果、営業利益は95百万円となりました。

● 飼料事業



飼料原料相場が高値で推移しているなか、穀類や糖糖類・乾牧草を中心とする配合飼料原料及び単味飼料の販売数量を順調に伸ばした結果、売上高は7,746百万円となりました。しかし、輸入乾牧草の需給が緩んだこと、加えて円安基調が続いたことから、営業利益は296百万円となりました。

事業部インタビュー



事業部支援、新商品の開発、新事業の開拓を通じ、優れた収益構造の構築に貢献する。

企画開発室 室長 宿谷 勉

Q 企画開発室の役割と会社における位置づけについて教えてください。

企画開発室の役割、活動目的は2つあります。ひとつは、新しい事業や新商品展開に向けた独自の商品開発・事業開発を行うこと、もうひとつが、既存事業部の開発支援です。当社は、事業部制による運営の中で、商品開発も原則、各事業部の収益とスタッフで賄っていますが、屋台骨である米穀事業以外では、商品開発に向けたリサーチ力、アイデアを具現化していくためのマンパワー、予算などの面からも、大掛かりな開発は難しい状況です。

そこで、企画開発室がコストセンターとして全社の収益の中から予算を確保し、各事業の懸案課題の中から有望と思われる内容の具現化をバックアップする体制をとっています。重点的にひとつのテーマに取り組み、各事業部で展開できる形にしてから、次の課題へとチャレンジしていくスタンスです。

2013年12月期は、コメ加工食品部の課題であった、新しい方式によるたんぱく質調整米の生産に取り組み、「真粒米」を完成させました。

現在、たんぱく質調整米の市場は、いわゆる無菌米飯パックと炊飯米が流通していますが、1食あたりは割高であるにも関わらず、簡便性・利便性の高さが支持され、無菌米飯パックのマーケットの方が大きい状況です。今回の開発商品は「真粒米」という、あえて粒感を強調するネーミングを施しました。その理由は、ご家庭内で炊飯し、冷凍保存して個食対応することができる、結果として割安になるという点が最大の特徴だからです。患者さんの経済的負担を軽減する商品として、従来の炊飯米におけるシェア拡大はもとより、無菌米飯パックから移行してくる人も多いと見ており、この商品はたんぱく質調整米全体のシェアを拡大できると自信をもっています。

Q 現在、取り組まれているテーマ、今後の注力ポイントについて教えてください。

「真粒米」は委託先企業の協力を得て、テストプラントの設置・稼働というスタイルで生産ラインを構築してきました。非常に好評をいただいていることから、2014年12月期は、生産ライ

ンを量産体制に移行し、より経済的な価格で、より多くの方にご利用いただけるようにしていきたいと考えています。さらに、ここで得たノウハウを活かし、台湾や中国をはじめとするアジア

での展開に向けて検討、リサーチを開始しました。こちらは事業部支援ではなく、海外での新規事業の立ち上げを視野に入れた取り組みになります。

今後も新商品の開発、事業部を支援する取り

組み、新しい事業の開発など、木徳神糧という会社における収益構造の多様性の構築に貢献していきたいと考えています。また、この分野で活躍できる社員の育成にも努めていきたいと考えています。

も っ と
知 っ たい!
木徳神糧

企画開発室

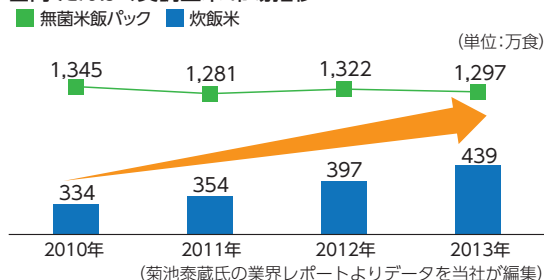
たんぱく質調整米支援の事業展開

POINT

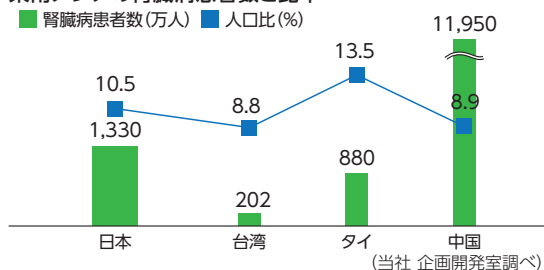
腎臓病患者の増加により、国内のたんぱく質調整米の市場全体は拡大傾向にある。利便性の高い無菌米飯パックの市場規模が大きいものの2011年以降、炊飯米の市場が拡大している。企画開発室が開発した真粒米は炊飯米である。

日本の腎臓病患者（初期や予備軍含む）は年々増加傾向にあり、成人の約8人に1人にあたる約1,300万人以上にのぼる。食生活の変化、運動不足、高齢化、ストレスなどが原因で糖尿病や心疾患から腎臓病になるケースも増加しており、近年では台湾などの東南アジアでの患者数も増加している。

国内 たんぱく質調整米 市場推移



東南アジアの腎臓病患者数と比率



【たんぱく質調整米「真粒米」のココがスゴい！】

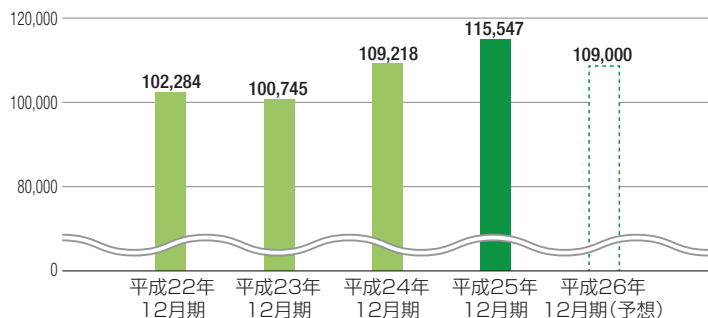
当社独自製法により
粒感が向上！

粒がしっかりしていて
炊飯後の再加熱もOK！

水分を抑えているので
常温保存が可能！

●売上高

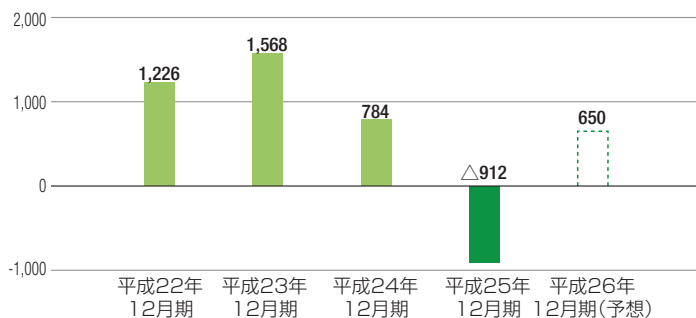
(単位：百万円)



米穀事業におけるミニマム・アクセス米の取扱量増加やコンビニや外食等向けの精米販売数量が堅調に推移したこと、飼料事業においても配合飼料原料及び単味飼料の販売が堅調であったことにより、販売数量は前年同期比順調に増加し、売上高は115,547百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

●営業利益

(単位：百万円)

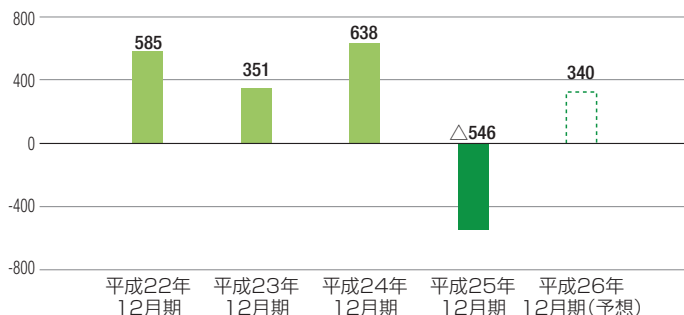


米穀事業において、平成24年産米の販売及び在庫評価において多額の損失を計上したことにより、営業損失は912百万円（前年同期は784百万円の営業利益）、当期純損失は546百万円（前年同期は638百万円の当期純利益）となりました。

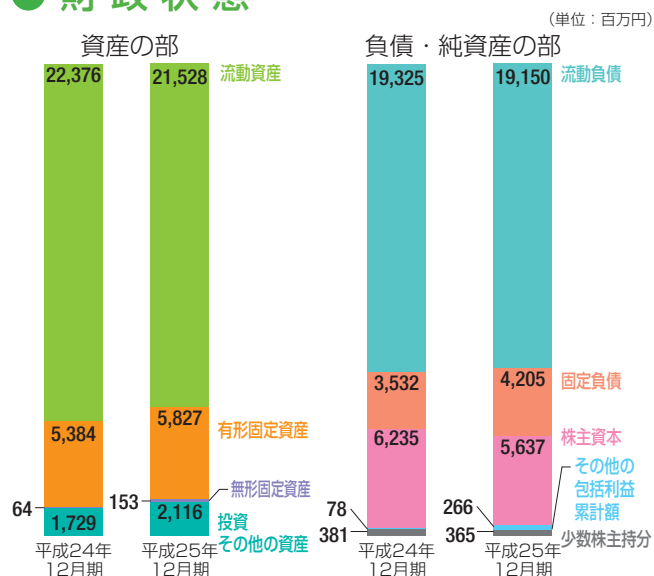
平成26年12月期予想におきましては、米穀事業及び食品事業の業績回復が見込まれている一方、消費税増税や新規事業への先行投資を織り込んでいます。

●当期純利益

(単位：百万円)



● 財政状態



流動資産

現金及び預金の減少額420百万円、たな卸資産の減少額1,012百万円、受取手形及び売掛金の増加額236百万円、前渡金の増加額225百万円等により、前期末から848百万円減少し21,528百万円となりました。

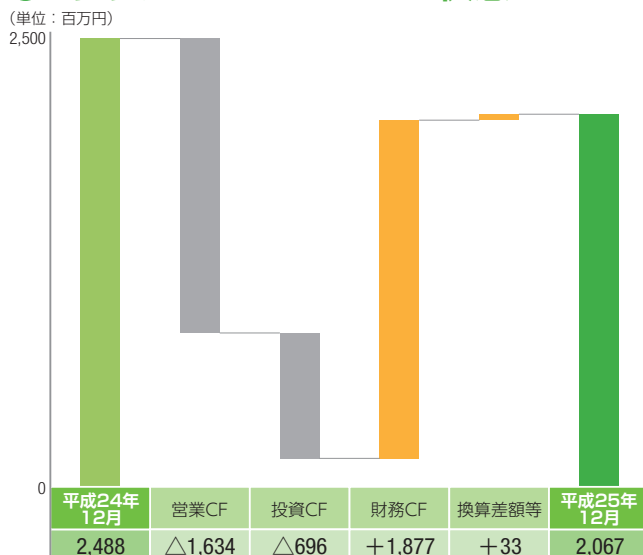
流動負債

支払手形及び買掛金の減少額1,701百万円に対し、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加額1,422百万円等により、前期末から175百万円減少し19,150百万円となりました。

固定負債

長期借入金の増加額752百万円、長期リース債務の増加額118百万円等により、前期末から672百万円増加し4,205百万円となりました。

● キャッシュ・フローの状態



営業活動によるキャッシュ・フロー

主に減価償却費430百万円、たな卸資産の減少1,039百万円に対し、税金等調整前当期純損失904百万円、売上債権の増加230百万円、仕入債務の減少1,702百万円があったこと等により、営業活動の結果使用した資金は、1,634百万円（前年同期は772百万円の使用）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に有形固定資産の取得による支出654百万円、無形固定資産の取得による支出22百万円、投資有価証券の取得による支出31百万円があったこと等により、投資活動の結果使用した資金は、696百万円（前年同期は117百万円の使用）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に長期借入金の返済による支出1,809百万円、社債の償還による支出140百万円に対し、短期借入金の増加1,028百万円、長期借入れによる収入2,890百万円があったこと等により、財務活動の結果獲得した資金は、1,877百万円（前年同期は445百万円の獲得）となりました。

株主優待のご案内

株主通信でお寄せいただきました株主アンケートで、株主の皆さまからご好評のあった当社優待品を、更に充実いたしました。丹波大納言小豆の赤飯に加え、当社の少量パックシリーズもご用意し贈呈いたしますので、是非ご堪能下さい。

ポイント 1 年2回の贈呈

6月末現在の株主の皆さま

▶ 9月頃送付

1,000株以上2,000株未満… 2,000円相当の米穀製品
2,000株以上…………… 4,000円相当の米穀製品等※

12月末現在の株主の皆さま

▶ 3月頃送付

1,000株以上…………… 3,000円相当の米穀製品

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント 2 当社米穀製品をお届けします。

一人暮らしの方に
オススメの
少量パックシリーズ

袋のまま冷蔵庫
で保存が可能

品質保持のため
脱酸素剤入り

原材料にこだわった、
炊飯器で炊ける本格的なお赤飯

NEW



新潟県こしひかり
900gパック



山形県つや姫
900gパック



北海道ゆめぴりか
900gパック



丹波大納言小豆の赤飯

会社概要 (平成25年12月31日現在)

● 会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒132-0015 東京都江戸川区西瑞江2-14-6
TEL : 03-5636-1501(代表)
FAX : 03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 358名

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

株式情報 (平成25年12月31日現在)

● 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
(2) 発行済株式の総数 8,530,000株
(3) 株主総数 1,747名
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村謙三	405千株	4.77%
濱田精麦株式会社	370	4.36
木村良	351	4.13
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明	247	2.91
木村友二郎	243	2.86
稲垣辰彌	230	2.71
水野正夫	226	2.66
木徳神糧従業員持株会	208	2.46
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(46,498株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員 (平成26年3月27日現在)

取締役・監査役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
取締役専務執行役員 水野 正夫
取締役常務執行役員 三澤 正博
取締役常務執行役員 伊豫田直記
取締役常務執行役員 天川 誠
取締役執行役員 鎌田 慶彦
取締役執行役員 竹内 伸夫
取締役執行役員 稲垣 英樹
取締役執行役員 石田 俊幸
常勤監査役 高橋 健治
監査役(社外) 杉野 翔子
監査役(社外) 福田 真也

執行役員

執行役員 竹田 光男
執行役員 大橋 正博
執行役員 岩苔 永人
(注) 執行役員については、平成26年4月1日に就任となります。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞

株主アンケートにご協力下さい

株主の皆様のお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函下さい。何卒ご協力をお願い申し上げます。

当社株式の
「株価」「投資方針」
「優待品」は？

株主通信でもっと
充実して欲しい
記事は？

今後の
投資判断は？

おコメに対して
期待する事は？

アンケート

問1. 株主通信でもっと充実して欲しい記事をお聞かせください。
 トップインタビュー セグメント別営業概況
 事業部インタビュー 連結財務データ 株主アンケート結果
 会社概要 株主優待のご案内 レシピ

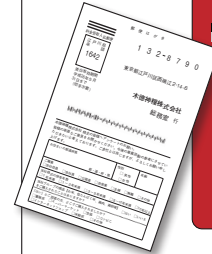
問2. 当社株式について、どのようにお考えでしょうか？
 株主満足 やや前高 妥当 やや前安 前安
 投資方針 短期保有 (1年未満) 長期保有 買い増し 売却 未定

問3. どのような内容があなたの今後の投資判断に影響を与えると思いますか？ (複数回答可)
 配当 株主優待 株主優待 業績、財務内容 利益率
 成長性 事業計画、事業展開 業界、市場動向
 新製品の動向 企業の認知度
 その他

問4. 今後、家庭で消費するおコメに対して、期待する事は何でしょうか？ (複数回答可)
 良食味 利便性 (保存が容易等) 少量パック (450g、900g等)
 低カロリー 糖質低 自宅配達
 専販の産地や銘柄のわかるセット
 その他

問5. その他、当社に対するご意見、ご要望があればお聞かせください。

アンケートの結果は株主の皆様へのサービス向上に役立てるものもあり、他の箇所に利用するものではありません。



お米を使った
おいしいレシピ

もち米シューマイ

えびの風味豊かな一品。
もちもちした食感が楽しめます。

● 調理時間：60分 ● カロリー-236kcal/1人分



材料 (2人分)

もち米…………… 1/2カップ
 豚ひき肉…………… 200g
 むきエビ…………… 50g
 玉ねぎ…………… 1/2個
 片栗粉…………… 適宜
 A
 ごま油…………… 小さじ1
 しょうゆ…………… 小さじ1
 砂糖…………… 小さじ1/2
 しょうが汁…………… 小さじ1/2
 塩・こしょう…………… 少々

作り方

- 1 むきエビは背わたをとって粗いみじん切りにする。玉ねぎもみじん切りにする。
- 2 もち米は洗って30分ほど水につけて水気をきり、バットなどに広げておく。
- 3 1のエビと玉ねぎに豚ひき肉とAの材料を加え、よく練り混ぜる。
- 4 3を20等分してだんご状に丸め、片栗粉をまぶして2のバットに転がすようにしてもち米をつける。
- 5 蒸し器にクッキングペーパーをしき、4を並べて15分ほど蒸す。